

製品名: IκB-β (リン酸化 Thr19) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04894**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	37kDa

抗原情報

遺伝子名	NFKB1B
別名	NFKB1B; IKB1; TRIP9; NF-kappa-B inhibitor beta; NF-kappa-B1B; I-kappa-B-beta; IκB-B; IκB-beta; IκappaBbeta; Thyroid receptor-interacting protein 9; TR-interacting protein 9; TRIP-9
遺伝子 ID	4793.0
SwissProt ID	Q15653
免疫原	抗血清は、Thr19 のリン酸化部位周辺のヒト IκBβ 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 4-53

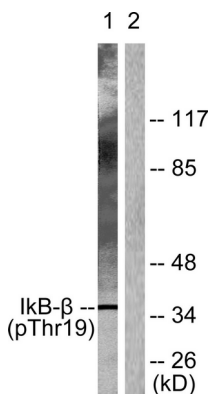
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は NF-κB 阻害因子ファミリーに属し、NF-κB と複合体を形成して細胞質に捕捉することで NF-κB を阻害する。これらのタンパク質上のセリン残基がキナーゼによってリン酸化されると、ユビキチン化経路を介して破壊され、NF-κB が活性化される。NF-κB は核に移行し、転写因子として機能する。この遺伝子には選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2011年7月]、機能：NF-κB と複合体を形成して細胞質に捕捉することで NF-κB を阻害する。しかし、細胞刺激後に再合成される非リン酸化型は NF-κB と結合して核への移行を可能にし、IκBA 依存性のさらなる不活性化から NF-κB を保護する。阻害因子 κB と相互作用する NKIRAS1 および NKIRAS2 との相互作用によりリン酸化が阻害され、分解に対する耐性が高まるため、分解速度が遅くなります。、PTM：リン酸化後、分解が起こります。NKIRAS1 および NKIRAS2 との相互作用により、リン酸化が阻害されると考えられます。、類似性：NF-κB 阻害因子ファミリーに属します。、類似性：6つの ANK リピートを含みます。、サブユニット：THRBB と相互作用します（リガンド結合ドメインを介して）。RELA および REL と相互作用します。COMMD1 および阻害因子 κB と相互作用する Ras 様 NKIRAS1 および NKIRAS2 と相互作用します。、組織特異性：調査したすべての組織で発現しています。、

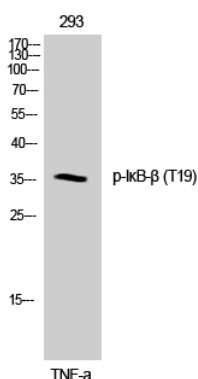
研究分野

ケモカイン;NOD 様受容体;RIG-I 様受容体;細胞質 DNA 感知経路;T 細胞受容体;B 細胞抗原;神経栄養因子;アディポサイトカイン;

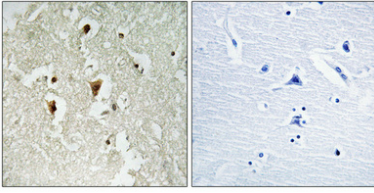
画像データ



TNF-α 20 ng/ml 30μL 処理した 293 細胞ライセートの IκB-β (リン酸化 Thr19) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 IκB-β (T19) ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。